

平成28年度 かほく市立大海小学校 学校評価結果 12月

重点目標	具体的取組	担当	現状	指標	評価の観点	達成度判断基準 (A+Bの割合で判定)	判定基準	備考 実施時期・対象	児童の評 価	保護者の 評価	地域の方 の評価	教員の評 価	達成度判 断	
確かな学力の 育成と小中 連携の充実	★国語科・算数科 の基礎学力の向上 を図る		評価テストにおいては良好である が、個人差があり、支援が必要な 児童がどの学年にもいる	成果	漢字テストで8割以上できる 計算テストで8割以上できる	漢字・計算の評価プリントで8 0％以上できる児童が80％以上	A90％以上 B:80％以上90％未満 C:70％以上80％未満 D:70％未満	毎学期 (児童)	漢字テスト 94% 計算テスト 89%				A	
	★家庭学習の習慣 づけを図る (10分×学年)		家庭学習への意識づけはしてきた が、習慣化・主体的という面では 十分とは言えない	成果	学年に応じた家庭学習の仕方 が定着し、進んで取り組んでい る	10分×学年の時間をクリアした 割合が100％以上	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	5・7・10・12・2月 がんばりカード 7月、12月	がんばりカード 100%				A	
	★アクティブラー ニングを取り入れ る等、一人一人が 分かる授業となる よう工夫と改善に 努める	学習 指導 部	自分の考えを持つことができな かったり、主体的に学び合うこと ができない児童がいる。教職員主 導で、児童の主体的な学びになっ ていないことがあるので、分かる 授業づくりに向け、研究の重点を もちに共通理解して取り組む	努力 成果 満足	児童の弱点克服のため、研究の 重点目標をもとに、授業改善を 図っている 単元終了後のテストで平均正 答率が8割以上できる 児童の理解度や分かる授業への 手立てが児童や保護者に実感で きている	教職員のアンケートで90％以上 単元終了後のテストで平均正答 率が8割以上できる児童の割合が8 0％以上	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月、12月 (教職員) 児童・保護者アンケート		93%	66%		100% C	
	★小中連携の推進 を図る		児童・生徒の交流事業、教職員の 研修の推進を図る必要がある	成果	校区内小中連携を意識した取 組を学期に1回以上行う	交流事業や教職員の研修の回数が 80％以上	A学期1回以上 B学期1回 C学期1回以下 D取組んでいない	毎学期 (教職員)					節活動体験 学校訪問時 授業参観	A
	英語活動の充実を 図る		ALTと連携し英語に親しむ活動を しているが、さらにその充実を図 る必要がある	努力	英語活動に興味関心をもち、 楽しい授業になるように創意・ 工夫をしている	児童・教職員アンケートで90％ 以上	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月 (児童・教職員)	94%				100%	B
	読書に親しむ習慣 化を図る		毎月23日前後に親子読書の日 を設定しているが、期待値ほど読 んでいない	成果	全校朝読書を設定し、学年に 応じた図書に親しませ、読書 目標(各学年の設定)の達成を 50％以上にさせる	年間 次の数値以上 低は、200冊 中は、8000ページ 高は、10000ページ	A80%以上 B:50%以上80%未満 C:30%以上50%未満 D:30%未満	7月、12月 (児童)	44%	国語 84% 算数 80%				B
学校組織力 の強化	学力向上に向けロ ードマップをもとに組 織的に取り組む	教務部 ・学 校 コ ー ー デ ィ ナ ー	計画をもとに各リーダーが中心と なって改善しながら推進してい く	努力	一人一人が参画意識をもって 学力向上に向けて自分の役割 を遂行している	教職員アンケートの実施で90％ 以上	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月 (教職員)					100%	A
	地域素材をいかした 学習に積極的に 取り組む		地域の人材や素材を取り入れた授 業が定着し、児童の関心意欲も高 まってきたが、連絡調整等、教師 の負担は大きい。学校コー ー デ ィ ナ ー を活用し、地域の人材や 素材を生かした学習を円滑に行っ ていきたい	努力 成果	総合的な学習や生活科等で地 域の素材や人材をいかした授 業を行っている 総合的な学習や生活科等で地 域の学習に楽しく取り組んでい る	教職員アンケートの実施で90％ 以上 児童アンケートの実施で80％以 上	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月、12月 (教職員) 7月、12月 (児童)					100% 98%	A A
	家庭・地域との協働 による学校運営協 議会の充実を図る		今年度から始まる学校運営協 議会の運営を充実させる必要があ る	満足	家庭や地域との連携に際し、 積極的に学校C/Nや学校運営 協議会を活用している	教職員・委員アンケートの実施で 80％以上	A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月、12月 (教職員・委員)			100%	100%	A	
	いじめ・不 登校や問題 行動の防止 と特別支援 教育・心の 教育の充実	★あいさつを通し て他者との関わり を持たせる		学校でのあいさつは元気にでき るようになっているが、地域での あいさつが定着していない	成果 成果	家庭や地域であいさつする習 慣が身につけている 学校内でお客さんに出会った ときにあいさつができる	三者のアンケートの評価の割合が 80％以上 児童・教職員アンケートの結果が 100％	A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満 A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月 (保護者・児童・地域) 7月、12月 (児童・教職員)	95% 97%	96%	88%		100% 100%
★いじめ・不登校 など問題行動の未 然防止に努める		生徒 指導 部	いじめや不登校の事例はないが、 小さなトラブルや登校渋りが見ら れる	努力 成果 成果	問題行動を起こす前に、積極 的に関わり、生徒指導主事を 中心としたチーム対応で家庭 との連携を図り、問題解決で きるようにしている S:「いじめはどんな理由があ ってもいけないと思う」「いじめ をしてはいけない」が100％以上 P:「学校のいじめの未然防止や 早期発見の取組が伝わってくる」 が80％以上	教職員アンケートの結果が 100%以上 S:「いじめはどんな理由があ ってもいけないと思う」「いじめ をしてはいけない」が100％以上 P:「学校のいじめの未然防止や 早期発見の取組が伝わってくる」 が80％以上	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月、12月 (児童・保護者)		100%			100% B	
★特別支援教育の 推進に努める			発達障害と思われる児童が友達 とトラブルを起こすことがある	努力 成果	特別支援コーディネーター及 び体制を活用しながら、一人 一人が自己有用感を感じ、認 め合える学級づくりに努めて いる	教職員アンケートの結果が90％ 以上 S:「自分にはよいところがあ る」が80％以上	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月、12月 (教職員) 7月、12月 (児童)					100% 95%	A A
家庭と連携し道徳 教育の充実を図る			道徳的判断力・実践力の弱い児童 がいる	努力 成果	年間指導計画にそって道徳教 育を行うとともに、道徳的な 判断力・実践力を高めるよう にする	T:道徳の授業を年1回以上公開し 、道徳便りや学年便りで保護者 に取組を啓発する P:「道徳の内容が伝わってくる」 が80％以上	A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月、12月 (教職員・保護者)			100%		A A	
異学年活動を推進 し、活力ある学校 づくりをする		特別 活動 部	異学年活動は実行されているが、 高学年としてのリーダー性が弱 く、異学年のグループをまとめる 力が弱い	満足 成果 満足	学級活動や学校行事などに楽し んで企画したり参加したりして いる S:「毎日学校に行くのが楽し い」が100％以上 P:「子どもは学校に行くのが楽 しい」が90％以上	アンケートの結果が、児童が8 0％以上・教職員が90％以上 S:「毎日学校に行くのが楽し い」が100％以上 P:「子どもは学校に行くのが楽 しい」が90％以上	A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満 A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 A100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月 (児童・教職員) 7月、12月 (児童・保護者)	98% 93%				100% B	A A
★家庭と連携し、 生活習慣の定着と 運動能力の向上 を目指す		保健 安全 部	朝ご飯の意識は高まってきたが、 その他の健康管理意識が未だ向上 していない	成果	食に関する指導計画をもと に、看護教諭等と連携して食 育の授業や活動を推進してい る	S/P「朝食を毎日食べている」 が90％以上	A90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月、12月 (児童・保護者)	100%	99%				A C
★児童の体力・運 動能力の向上を 目指す		特別 活動 部	体力テストの結果は良好ではある が、一部運動能力が異平均と比 べて劣っている種目がある	努力 成果	各学年で決められたスポチャ レの内容や目標値に向かって 取り組んでいる やや苦手の短距離走の走力をつ ける	学期毎にスポチャレ記録回数の更 新を2回以上するが90％以上 短距離走の学校平均値の伸びを昨 年度以上にしているが80％以上	A3回以上 B:2回 C:1回 D:0回 A数値が上がっている B:数値がほぼ同じである C:数値が下がっている	毎学期 体力テスト結果					100%	A A